

フランスの貯蓄銀行 (ケス・デパルニュ) の地域貢献

1 貯蓄銀行の概況

貯蓄銀行(ケス・デパルニュ) グループは、2004年末の総資産が5,439億ユーロ(約76兆円、1ユーロ140円として換算、以下同じ) と、フランスでは4番目、世界では16番目に大きい。国内を31の地域貯蓄銀行がカバーし、その全国中央銀行であるCNCEの下にアセットマネジメントや保険等の子会社が存在する総合的な金融グループである。グループ全体で、4,700の支店、310万の組合員、2,600万の顧客を有する。05年秋に、貯蓄銀行グループの地域貢献について、ヒアリングを行う機会を得たので、ここでその内容を紹介することとしたい。

2 歴史的変遷

貯蓄銀行のルーツは、1818年に設立されたパリ貯蓄金庫にさかのぼる。その設立目的は、「農民、労働者、職人、家内奉公人、およびその他の質素勤勉な人々によって預託される小額を貯金に受け入れること」^(注1)であった。当時は、地方の農民が都市に職を求めて押し寄せ、疫病が蔓延し、貧困に苦しむ人々が大勢いた。こうした状況のなかで、貯蓄金庫は、貧困な人々に貯蓄の大切さを教えるという啓蒙的な活動を行っており、相互扶助組織という性格を持っていた。その後、各地に貯蓄金庫が設立され、最も多い時期には500を超えた。

貯蓄金庫は、政府の出資を受けていないものの、公的金融機関と位置付けられていた。それは、政府から公共的な資格を認められ、設立当初からの主力商品であるリブレA(非課税の貯蓄貯金口座) の全額が公的金融機関の預金供託公庫を通して運用されたからである。

1950年以降数度の制度改革が行われ、84年には地域貯蓄金庫の流動性、ソルベンシー、法令遵守を監督する中央機関が設立され、91年には合併によって貯蓄金庫は31行に再編された。さらに99年には、各地域の貯蓄金庫の管内をいくつかの区域に分けて出資を受け入れる組合をつくり、顧客や職員等からの出資を仰いで協同組合銀行となった。こうして相互扶助的な組織から始まった貯蓄金庫は、一般の銀行と同様の業務^(注2)を行う民間「銀行」へと転換した。

(注1) 矢作俊彦(1999)『フランスにおける公的金融と大衆貯蓄』東京大学出版会、37頁。

(注2) 現在もリブレAの取扱いが可能なのは貯蓄銀行と郵便銀行のみであるが、同貯金が貯蓄銀行のリテール貯金に占める割合は4分の1に低下した。

3 地域への貢献

1895年以降、各貯蓄金庫では、寄付金、遺産、補助金、預金供託公庫から受け取る預金金利と貯金者に支払う金利の差額を「独自資産」(fortune personnelle) として積み立て、低コスト住宅、公衆浴場、市民菜



園等の建設への補助金にあてていた。貯蓄銀行に協同組合銀行のステータスを与えた99年の法律では、こうした地域貢献が認知され、各地域の貯蓄銀行は収益の一部を地域の社会的な効果のある経済プロジェクト（PELS: projets d'économie locale et sociale）に資金供給することが定められた。

その原資には、各貯蓄銀行がCNCEに対して行う出資の配当の一部があてられる。拠出の割合は出資配当の50～100%と定められているが、ほとんどの貯蓄銀行は50%を拠出している。PELSの対象分野は、新規ビジネスの立ち上げ等の「雇用」、高齢者や障害者等の自立の推進、識字などの基本的な知識の習得等の「自立」、文化やスポーツ活動、自然・文化遺産の保護を通じた「社会的な結びつきの強化」の三つである。こうした分野で活動するアソシエーション、財団、非営利組織、超小規模企業等の組織に対して、助成金、ローン、資本注入、その他の形態で資金が供給される。ローンの場合は、業務としては条件面で扱えないものに対して、無利子など借り手に有利な条件で貸し付ける。

各貯蓄銀行の下に設けられた出資受入組合の役員たちは、地元の組織にPELSへ申し込むよう声をかける。組織からの申請は、各貯蓄銀行に最低1名置かれているPELS専任の担当者が受け付け、その後、出資組合の役員、貯蓄銀行の従業員、専門家によって構成される選考委員会が審査を行う。審査は、プロジェクトが地域内のものであること、対象となる人、経済的・社会的な効果を重視する。各貯蓄銀行の理事の承認

を受けて資金が供給され、プロジェクトの終了時には成果について報告が行われる。

PELSの例として、フランシュ・コンテ貯蓄銀行の支援先のアソシエーションをみてみよう。この組織は、長期的失業者等に対する職業訓練として、紙やガラス等の資源の回収・再利用という作業を行うが、新規業務として焼却処分されていた重要文書の破棄・リサイクルを開始する際、シュレッダー等の備品の購入に貯蓄銀行から7,000ユーロ（98万円）の助成金と28,000ユーロ（392万円）の無利子貸付を受けた。

4 PELSの成果

PELSの件数は貯蓄銀行の規模によって差があり、04年は最少で12件、最多で164件であった。31行の合計では、2,352件（前年比19.0%増）に対して5,060万ユーロ（同22.5%増、約71億円）の資金が供給された。金額ベースでの内訳は、「自立」が48%、「雇用」が43%、「社会的な結びつきの強化」が9%を占めた。また、支援形態としては、助成金が65%と多く、ローンが27%、資本注入が7%、その他が1%であった。

01年からの4年間に、貯蓄銀行は合計して、6,600件のPELSに対して1.3億ユーロ（182億円）の資金を出し、それにより生まれた新規の事業から約5,000の雇用が創出された。貯蓄銀行では、民間の銀行に転換した後も、設立当初から続く社会的な役割を果たしていくことによって、その存在意義を利用者に強くアピールしている。

（副主任研究員 重頭ユカリ・しげとうゆかり）